

# 農 研 速 報

平成 26 年 12 月 15 日発行  
茨城県農業総合センター農業研究所水田利用研究室  
〒301－0816 茨城県龍ヶ崎市大徳町 3974  
TEL 0297－62－0206 FAX 0297－64－0667

作物名(大豆)

県 名	生育ステージ		生育の状況	問 題 点	これまでに講じた対策 及び今後の方針
	本 年	平年対比			
茨 城 県 (龍ヶ崎市)	タチナガハ 10 月 29 日 成熟期	1 日遅い	<p>大豆生育期間中(6 月 19 日～10 月 30 日)の気象は、日平均気温は平年より 0.5℃低く、日照時間は平年比 105%、降水量は平年比 131%であった。ただし、試験圃場において、開花期前後にあたる 7 月 20 日から 8 月 9 日の 21 日間は全く雨が降らず、日平均気温は 2.5℃高く、日照時間は平年比 190%多かった。(龍ヶ崎アメダス観測値。平年値は直近 5 カ年の平均値)。</p> <p>成熟期の生育状況及び収量は以下の通りである(表 1, 図 1)。 タチナガハは、平年と比較して開花期は 4 日早く、成熟期は 1 日遅かった。主茎長、分枝数が平年より特に上回り、全重は平年比 145%と重かった。株あたりの稔実莢数が多く百粒重が 44gと重かったことから、子実重は平年比 191%と重かった。</p> <p>納豆小粒は、平年と比較して開花期は 2 日早く、成熟期は 5 日遅かった。主茎長と分枝数が平年より上回り、全重は平年比 125%と重かった。株あたりの稔実莢数は平年並みであるものの百粒重が 12gと重かったことから、子実重は平年比 142%と重かった。</p> <p>タチナガハでは著しい青立ち症状が観察された(図 1)。青立ち発生の一因として、干ばつや虫害による莢数の減少が挙げられる。今年は開花期前後に雨が降らず乾燥状態が続き、開花初期は落花や落莢があったと推察されるが、タチナガハの最終的な莢数および子実重は平年を上回っており、青立ち発生の理由は不明である。</p>		紫斑病および害虫の防除を適宜実施した。
	納豆小粒 10 月 30 日 成熟期	5 日遅い			

表 1 成熟期における生育, 収量, 品質

品 種	開花期			成熟期			主茎長			主茎節数			分枝数		
	本年 (月日)	前年差 (月日)	平年差 (月日)	本年	前年差 (日)	平年差 (日)	本年 (cm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (節)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (本/株)	前年比 (%)	平年比 (%)
タチナガハ	<b>7月28日</b>	-4 (8月1日)	-4 (8月1日)	<b>10月29日</b>	+7 (10月22日)	+1 (10月28日)	<b>61</b>	85 (72)	113 (54)	<b>14.7</b>	96 (15.3)	106 (13.9)	<b>5.1</b>	109 (4.7)	113 (4.5)
納豆小粒	<b>8月4日</b>	-2 (8月6日)	-2 (8月6日)	<b>10月30日</b>	+6 (10月24日)	+5 (10月25日)	<b>80</b>	90 (89)	111 (72)	<b>17.4</b>	96 (18.1)	104 (16.8)	<b>9.4</b>	107 (8.8)	142 (6.6)

  

品 種	茎の太さ			全重			稔実莢数			子実重			百粒重		
	本年 (mm)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (kg/a)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (莢/株)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (kg/a)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (g)	前年比 (%)	平年比 (%)
タチナガハ	<b>10.4</b>	102 (10.2)	106 (9.8)	<b>84.0</b>	122 (68.8)	145 (58.1)	<b>59</b>	104 (57)	123 (48)	<b>46.3</b>	148 (31.3)	197 (23.5)	<b>44.0</b>	130 (33.9)	133 (33.2)
納豆小粒	<b>10.6</b>	100 (10.6)	105 (10.1)	<b>81.7</b>	99 (82.6)	125 (65.5)	<b>167</b>	92 (182)	94 (178)	<b>41.5</b>	114 (36.5)	142 (29.3)	<b>12.4</b>	124 (10.0)	128 (9.7)

試験場所: 農業研究所水田利用研究室内圃場(龍ヶ崎市、中粗粒灰色低地土)。

( )内は前年値又は平年値。平年値は直近5カ年分(平成20年～25年、平成24年は天候不順により播種期が7日遅れたため除外)のデータの平均値。

茎の太さ: 第1節(子葉節)と第2節(初生葉節)の中間で最も太い部分を測定した。

耕種概要: 6月19日播種、11.1株/㎡(畦間60cm×株間15cm)1本立て、施肥量; N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O: 0.3-1.2-1.2(kg/a)

図 1 農研水田利用研究室圃場における成熟期の状況(タチナガハ, 納豆小粒; 10月27日撮影)



タチナガハ



納豆小粒